

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------------------------|--------|------------|
| ○事業所名 | 学校法人嶺谷学園ハッピーテラスキッズ大津ルーム ぎんなんラボ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024/12/2 | | 2024/12/20 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) 17人 | (回答者数) | 15人 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024/12/2 | | 2024/12/13 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) 4人 | (回答者数) | 4人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2024/12/2 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 1 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っている。 | 支援中来所した保護者の方と話しながら最近の様子や、他の療育施設での様子など情報共有をしている。保護者が気になる事があれば都度相談に乗りながら、必要な時にはアドバイスをを行っている。フィードバックに来られない保護者の方には別紙を用意してその日の取り組みの共有を行っている。 | 保護者の方と直接話をする方が子どもたちの様子が伝わりやすいため、できるだけ支援中保護者の方に来てもらえる機会を増やす。 |
| 2 | 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。 | アセスメントシートを使い保護者のニーズを聞くと共に、苦手な事だけでなく、その子の好きな物や得意な事を聞き取り、得意な事も伸ばしていけるよう、児童発達支援計画に取り入れている。 | 子どもたちの通う幼稚園、保育園との情報共有、連携を密に行える様にする。 |
| 3 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われている。 | 月2回小学校就学前の子どもたち向けに集団での活動を開始した。また子どもの状況に応じて2人組での支援を行ったり、活動の1項目お友だちとの関わりを持てる時間を設けている。 | 年長以外の年中、年少の子どもたちを対象にした集団活動を取り入れる。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 家族等の参加出来る研修、家族同士で関わる機会等保護者向けの取り組みが少ない。 | 働いている保護者の方も多く家族同士で関わる機会が取れない。また家族同士の交流を望まない保護者の方もいる。 | 長期休み期間でのイベント等、気軽に保護者同士が交流できる機会を設ける。 |
| 2 | 保育所、認定子ども園との連携はあるが、就学移行の際の小学校との連携や市の療育センターとの情報共有の機会が少ない。 | 開所からまだ1年しか経過しておらず、卒園児が出ていないことで小学校との連携をとっていなかった。就学移行に向けて小学校の情報が少ない。 | 来年度から小学生になる子どもの保護者の方から支援級と普通級について相談を受ける機会もあり、今後は小学校や療育センターとの情報交換を行いながら、就学移行の相談に乗れるようにする。 |
| 3 | 障害の特性に合わせた環境構成については行っているが、バリアフリー化がされていない。 | 現在通っている子ども、保護者共にバリアフリーを必要としている利用者がいないため、段差や手すりなど特に意識して改良していない。 | 現在は身体に障害のある子どもや特別配慮する利用者がいないためバリアフリーの必要が無いが、必要に応じて段差を無くす配慮をしたり、手すりを設けたりする。また、支援に集中しやすい環境作りを意識する。 |